

「知事とのフレッシュトーク」（平成26年11月13日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成26年11月13日（木）に青森市の私立青森山田高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森山田高等学校の概要

大正7年、山田裁縫教授所として創立。

昭和23年、山田高等学校に改称。

昭和37年、青森山田高等学校に改称。

平成13年、青森山田中学校を青森県青森市浜田板橋23（当時）に開校。

平成30年度に創立100周年を迎える県下でも有数の伝統校。

私学の強みを生かした教育活動をとおして生徒個々の成長を実現し、社会に貢献できる人間性あふれる人材を地域・日本そして世界へ送り出すことを目標としている。

スポーツ界はもとより、経済界などあらゆる分野の国内外で活躍している卒業生を数多く送り出している。

◆新体操団体演技披露◆

会場到着後、知事は新体操団体演技を鑑賞しました。



◆吹奏楽部演奏◆

新体操団体演技の鑑賞後、吹奏楽部による演奏を鑑賞しました。



◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事、本日はお忙しい中、青森山田高等学校によろこおいでくださいました。

知事と高校生がトークできる機会を、生徒、教職員一同大変楽しみにしておりました。

また、フレッシュトークで知事が私立高校にお出でになるのは、本校が初だとお聞きしています。誠に光栄に存じます。

本校は5年後の平成30年に創立100周年を迎える伝統校であり、スポーツ界、芸術、文化の世界のみならず、経済界、医療界など多方面に優秀な人財を多数輩出しております。

この後、その一端は映像等で紹介させていただきます。

このフレッシュトークが楽しく実り多い時間となりますよう、よろしく願い申し上げます。

【学校紹介（DVD）】

【知事あいさつ】

こんにちは。皆さん、すごく元気ですね。

先ほど新体操部の団体演技を鑑賞させていただきました。世界レベルの技術は、やはり素晴らしかったです。そして吹奏楽部による、美しい演奏も聴かせていただきました。

今日は、スポーツをはじめとする様々な分野で活躍してくれている青森山田高等学校の皆さんと、将来への想いや夢、あるいは今の青森県について感じていることやこうあってほしいと思っていることを率直に話し合いたいと思っています。

皆さんには、これから素晴らしい未来が待っています。だからこそ、今は一生懸命勉強をして、体も鍛え、そして自分の進むべき道を考えていく時期だと思います。

私が高校生だった頃から、もう40年位経ちますが、振り返ってみると、一番楽しかったのが高校生の時代です。生涯の友達ができました。夢に向かって一生懸命走り続けました。

今日は、フレッシュで元気な皆さんの力をもらって、青森県をさらに元気にしていきたいと思っています。よろしく願いします。

【意見交換】

発言者1（3年、女子）

知事とこうして直接お会いでき、全校生徒、心より歓迎しています。

授業料に対する国の就学支援金制度が実施され、私の母は助かっていると言っていました。ですが、その他の諸経費については、負担するのが大変だとも話していました。物価の上昇、保護者の給与の目減りは公立・私立の区別なく押し寄せてきます。県が行っている支援費補助金を、これまで以上にいくらかでも上乗せしていただければと思います。

また、最近の自然災害の発生状況を見ると、いつ、どこで地震等が発生してもおかしくありません。校舎等の耐震化工事は最優先されるべきだと思います。

もし、公立学校、私立学校で耐震化工事の進み具合に差があるようでしたら、私立学校へのご配慮をお願いできないものでしょうか。例えば、低金利で長期に渡る融資制度などがあれば



便利だろうと考えます。この点について、知事のお話をお聞きしたいと思います。

知事

さすが3年生ですね。1年生、2年生の皆さんも、3年生になったら先輩のように、しっかりと発言ができるように勉強してください。

とても鋭い質問をしてくれました。まるで、県議会での質問のように感じました。

1つ目は、県が実施している支援制度にどのようなものがあるかということでした。青森県では、所得の低い世帯の生徒に対し、授業料の負担軽減のために、国の就学支援金に上乗せする就学支援費補助を実施しています。

また、耐震化工事の話もありましたが、東日本大震災より前から指導し、工事も進めていたので、公立の高等学校における耐震化率は97.8%という状況です。県では、今年度から耐震診断に対する補助制度を始めました。耐震化工事を進めるための長期の低金利融資制度等も含め、できることをしっかり行っています。

詳しいことは、担当課から説明します。



総務部総務学事課職員

就学支援補助については、知事からもお話がありましたが、県では授業料負担の軽減を図るため、経済的に授業料負担の大きい世帯の生徒に対し、国の就学支援金に上乗せして就学支援補助を実施しています。

国の就学支援金は世帯の所得に応じて支給される仕組みになっていますが、今年度の入学生からは経済的に授業料の負担感が大きい世帯を中心に支給額が拡充されたので、県の就学支援補助と合わせると、より一層の負担軽減が図られます。

また、今年度から奨学のための給付金制度が始まり、特に経済的に厳しい世帯に対しては、教材費や教科書代など、授業料以外の教育費負担の軽減も図られています。

県では、私立高校の生徒が経済的な理由で就学を断念することのないように、引き続き教育費負担の軽減を図っていきたいと考えています。

次に、耐震化工事についてですが、私立学校の耐震化は、公立学校に比べると残念ながら遅れています。

学校の耐震化工事に対しては、国の補助制度があるほかに、日本私立学校振興・共済事業団という、私立学校の振興を図る融資などを行っている団体が、長期で低金利な融資制度を用意しています。

県では、今年度から耐震診断に対する補助制度を始めましたので、まずは学校に地震に対する学校施設の安全性、耐震性について把握してもらい、その上で耐震化工事についての補助制度や融資制度を活用して、耐震化を進めるように働きかけていきたいと思っています。

知事

今日、家に帰ったら、お父さん、お母さんに県でもいろいろ頑張っていることを伝えてくだ

さい。

それでは、こちらから質問です。将来の夢はなんですか。

発言者 1

明確には決まっていますが、大学進学を考えています。

県外の大学に進学しようと考えていますが、将来は絶対、青森に帰ってきたいと思っています。

知事

大学でしっかり勉強して、ふるさと青森を愛する人財として帰ってきてください。よろしくお願いします。

発言者 2 (2年、女子)

私は、青森県が世界と繋がるグローバルな県になってほしいと思います。私自身、船で青森県を訪れた人たちの道案内ボランティアに参加し、少しですが自分ができることを手伝いました。また、道案内ボランティアに参加してみて、青森県を訪れる海外の人が多くことにも気付きました。

新幹線が開通してから新青森駅前の施設は少しずつ整備されてきていると思いますが、まだまだ海外の観光客への配慮は足りないと思います。例えば、観光施設や交通機関で使われている日本語表示に英訳や中国語・ハングル語訳等をつけると、外国からの観光客は観光しやすくなるのではないのでしょうか。訪日客の6割を占める中国語圏やハングル語圏の観光客をどれだけ青森県に誘致できるかが、青森県の今後の課題ではないのでしょうか。

また、グローバルな県にするためには、やはり県民が青森の良さを知っていることが前提になると思います。郷土愛を育てるために学校で授業をしたり、青森県をアピールする施設を充実したり、イベントを行ったりしていくことがこれからは必要だと思いますが、いかがでしょうか。

知事

皆さん、最近、巨大な船が青森港に来ているのを見たことがありますか。約11万6千トンもある「ダイヤモンド・プリンセス」という大型客船は、大きすぎて新中央埠頭に接岸できませんでした。今年だけでも約3万人の方が、そのような客船で海外から本県を訪れています。

それから、青森空港にも海外からのお客さんが増えていて、特にチャーター便では台湾から、定期便では韓国から来てくれています。

青森県は今、とても国際化が進んできていると思います。県でも、国際化のためにどんどん港や空港を活用していきたいと思います。そのために何が重要かという、やはり英語が大事だと思います。

そして、津軽海峡にアジアの国々の船が集まるような状況になっています。

アジア・北米航路と言うのがありますが、アジアからアメリカに行く貨物船の3割が、津軽海峡を通っています。また、北極海航路というルートが利用されるようになると、多くの船が津軽海峡を通らざるを得ません。なぜかという、中国大陸や朝鮮半島、ロシアにとっては物流の出入口として津軽海峡がとても重要だからです。青森県は、観光だけではなく、国際的な物流拠点としての可能性を有しています。

そのため、ますます、国際化を積極的に進めていかなければいけないと思います。観光客の誘致にも一生懸命努めており、最近、特にオーストラリアからのお客さんが増えています。冬の青森に来て、八甲田山で冬も春もスキーを楽しむということが人気です。

ですから、一緒に話を聞いてくれている皆さんも、スポーツの分野などでは既に青森山田高校は有名ですが、世界で活躍できる青森山田高校を目指し、英語をしっかりと学んでほしいと思います。

次に、郷土愛を育むための取組についてお話しします。青森県では、「あおもりを愛する人づくり戦略」というものを、全国に先駆けて策定しました。

十数年前の青森県は財政破綻に近い状況にあり、非常に困りました。しかし、そのような時でも、私立学校に対する助成はきちんと行いました。それは、私立学校独自の建学の精神、独自の校風に基づいた特色のある教育は、人づくりにとって大事だと考えたからです。

「一年の計は麦を植うるにあり、十年の計は木を植うるにあり、百年の計は人を植うるにあり」という格言のとおり、青森の未来を考えた時に、青森を本当に好きだという人を増やしたいという気持ちで、県庁みんなでいろいろな努力をしています。これからも、青森県を愛する人財がたくさん出てくるような戦略づくりを進めていきたいと思っています。

それでは、担当課の方からも話を補足してください。

観光国際戦略局観光交流推進課職員

ご指摘のとおり、韓国や中国などからたくさんの観光客が、青森県にも来ています。

そのため県では、例えば、台湾の有名女優が出演するテレビ番組の中で、青森を取材してもらったり、国際チャーター便が本県に到着した時に、空港でお出迎えして気持ちよく青森に入ってもらったりという取組をしています。

また、言語に関しては、民間の観光施設や交通事業者が、少しでも外国語表記に取り組めるように、県でも補助しながら、県全体として、外国語表記の整備を進めていきたいと思っています。

さらに、海外からの旅行客が困った時に、通訳や電話サービスを受けられる仕組みも設けており、少しでも安心、満足して旅行を楽しんでもらえるよう、県一丸となって取り組んでいきます。



知事

ところで、パスポートを持っていますか。

発言者2

持っています。

知事

嬉しいです。どこの国に行ったことがありますか。

発言者 2

オーストラリアとイギリスとアメリカです。

知事

すごいですね。皆さん、青森県民のパスポート取得率は、残念ながら全国で一番低いです。青森県には、韓国のお客様も台湾のお客様も、たくさん来てくれています。修学旅行生も来てくれています。もし可能であれば、皆さんの学校でも修学旅行で海外に行くことにチャレンジしていただければと思います。特に、台湾や韓国は、文化、歴史などが日本に非常に近いので、楽しいことが多いと思います。

では、質問させていただきます。行ったことのある国の中で、どの国が一番良かったですか。

発言者 2

迷います。

知事

そうですね。みんな良かったのですね。せっかくなので、他の生徒にも聞いてみましょう。世界の中で、興味のある国はどこですか。

生徒 1

イギリスです。

生徒 2

ハワイです。

生徒 3

スペインです。

知事

皆さん、高校生ではなかなか難しいと思いますが、大学や就職して時間ができたら、パスポートを取得して、ぜひ海外に行ってほしいと思います。では、海外に行く時にはどういうことに注意したらいいですか。



発言者 1

積極的に話すことが大事だと思います。

知事

積極的に話すのが大事だということなので、皆さん、きちんと英語を勉強してください。

本日お見えになっている理事長は流暢な英語をお話しますので、皆さんも理事長に負けなように頑張ってください。将来の夢は何ですか。

発言者 2

まだ決まっていません。海外に行って、ゆっくり考えたいと思います。

発言者 3

私は青森県が大好きです。特に自然の豊かさとそこで生産されるおいしい食べ物はどこにも負けない大きな魅力だと思っています。

そこで私は、ストレスの多い現代社会において、豊かな自然と食べ物のおいしさには絶大な癒やし効果があると考え、この青森に巨大なリゾート型医療施設を作ってみてはどうかと考えました。雇用を生み出す目的もありますが、何よりも豊かな自然の中で家族とゆったりした時間を過ごし、心身ともにリフレッシュしてもらうことで、集まった人に「青森はいい」、「青森大好き」という人を増やしていくのはどうでしょうか。

また、家族と一緒に長期滞在が可能な施設にすることで、終末期の緩和ケアにも対応できるのではないかと考えます。高齢化が進む日本の中で、退職後の第二の人生を送ろうという高齢の方々にぜひ青森に来てもらい、自然豊かなここ青森で余生を送ってもらおうというのはどうでしょうか。青森県のPRをこれまでとは少し違う角度からできるとは思いますが、いかがでしょうか。

知事

とてもいい発想だと思います。

大規模なリゾート型医療施設を建設するのは難しいかもしれませんが、何よりも青森にはおいしいものがたくさんあるし、温泉もあるし、人が魅力的です。心が癒されます。

観光調査で、全国各県のホスピタリティ、地元の言葉で言うと「あずましい度」ですが、それを調査したところ、青森県が2位になりました。青森の人はとても心が温かく、優しい、ホスピタリティに溢れているという結果が出ています。

ですので、長期滞在ができるリゾート型の医療施設については、実は県としても実現できないかと考えて調査したことがあります。

下北半島にある川内というところで、小さい規模ですが、脳卒中、脳梗塞の患者さんに来ていただいて、長期滞在していただくということを試してみたことがあります。それから、浅虫温泉で糖尿病などの人に長期滞在してもらい、食事療法や運動をってもらう仕組みを考えたこともありました。

しかし、それらの取組はなかなかうまくいっていません。お医者さんの数が足りないので、いろいろな仕組みを考えてもうまく実現させることができませんでした。そのことがとても残念ですが、ご提案いただいたことは、とても大事な視点ですので、ホスピタリティが日本で2位まで良くなった青森県、温泉もあり、食べ物もおいしく、楽しい人がたくさんいる、心が安らぐ青森県として、リゾート型、療養型施設なども含めて検討していきたいと思っています。

次に、「緩和ケア」の話をさせていただきます。皆さんの中には、おじいちゃんやおばあちゃん、親戚の方などでどなたかががんになった人がいるかもしれません。がんというのは、痛みもある大変な病気だということを知っている人もいるかもしれません。青森県は、県民の3人に1人ががんで亡くなっている状況です。何とかして、この状態を改善したいと思っています。

そこで、国立がん研究センター東病院の院長に、県立中央病院の院長として就任していただき、がん対策について、細かくいろいろなことを進めています。その中で、ようやく「緩和ケア」という、がんによる心と身体の苦痛を緩和しながら、患者さんやそのご家族が自分らしい

生活を送れるようにする仕組みづくりも進んでいます。

私たちは、県民みんなが健康な青森県を作りたいと思っています。まず、何よりも生活習慣病をなくしていきたい。青森県の最大の課題は、お酒を飲む量が多い、喫煙率が高いということです。タバコは、「吸いすぎに注意」と言っていますが、タバコを吸い続けると肺が汚れるので、できれば吸わない方がいいです。このことを本当にお願ひしたいです。

では、将来の夢はなんですか。

発言者 3

まだ決まっていませんが、大学で語学を学び、外国に行って一度世界を見てから青森に戻ってきて、どこが良いところかどこが駄目なところなのかをきちんと自分で考えて仕事をしたいと思っています。

知事

とてもいいことを言ってくれました。県知事としては、高校生には地元就職してほしいと言っていますが、世界のいろいろなところを見てくるということは、とても大事だと思います。矛盾したことを言うようですが、皆さんも機会のある時にいろいろなことを体験して、世界を見て、その中で青森県の役に立ちそうなことを持ち帰ったり、世界で流行しているものの情報を提供してくれると嬉しいです。

皆さんもためらわず、外に飛び出す時は飛び出し、そしてできれば青森に帰ってきてくれるということをお願いしたいと思います。

では、どういう語学に興味がありますか。



発言者 3

とりあえず英語が基本だと考えていますが、中国などいろいろな国の文化に触れたいです。

知事

大事ですね。それでは、県職員の先輩から、どういう気持ちで勉強したらいいかということについて話してもらいましょう。

企画政策部広報広聴課職員

自分が好きな分野は、勉強してもあまり苦には感じないと思いますので、まずは、その分野を突きつめて、これが自分の生きる道なんだということを見定めたら、どんどん伸ばしていただければいいと思います。苦手な分野も頑張らなければいけません。得意な分野をどんどん伸ばしつつ、苦手分野も少し頑張っていたらいいかなと思います。

発言者 4 (2年、男子)

私は今年、「日本の次世代リーダー養成塾」に参加しました。2週間のプログラムの全てが刺激的で将来に役立つものばかりで、有意義な時間を過ごすことができました。参加させていただいたことに感謝しています。

その「次世代リーダー養成塾」の中で、特に何度も話題になり、私自身も強く必要性を感じ

たことがあります。それは留学についてです。現在の日本を「外から見る」必要があることを痛感しました。しかもそれは大学に行くからではなく、高校時代にやるべきだと私は思います。大学レベルでは単位互換をしているところが多くあり、経済的な課題が解決できれば、留学も容易にできると思うのですが、高校は長期の留学になると留年覚悟で行かなければならず、いろいろ考えると躊躇してしまうところが多くなるのではないかと思います。こんなことを考える高校生は私だけではないはずです。

そこで、ぜひ青森県に長期留学の可能な高校を作り、離島留学のように全国から高校時代からの留学を希望している生徒を募集すればいいのではないかと考えました。知事のご意見をお聞かせください。

知事

非常に大胆な意見だと思います。

県では、今年度、2週間以上1年未満の留学である短期派遣を募集し、学校単位の海外派遣プログラムを対象に、八戸工業高等専門学校と東奥義塾高等学校の生徒に、一人最大10万円の補助金を支給することにしています。世界を見てくれる、世界を見たいという子供たちを大事にしなければいけないと思っています。

ただ、あなたが心配しているとおおり、1年間留学すると留年しなければいけないということもあり、いろいろな課題があることも事実です。

県として長期留学の可能な高校を作るというのはなかなか厳しい状況ですが、青森山田高校ならできるかもしれません。後で理事長に意見を聞いてみようと思いますが、その前に教育委員会から職員が来ていますので、少し話をしてもらいます。

教育庁学校教育課職員

日本を「外から見る」というのは、とても良いことです。次代を担う多くの若者が、海外留学を経験しておくことは、異文化理解を深め、国際的に活躍できるグローバル人材が育てられ、大変有益なことだと思います。

国では、平成24年度から、高校生の海外留学を促進するため、留学に必要な費用の一部を支給する制度を創設しており、県教育委員会では、これを活用し、県内高校生の海外留学を募っています。

この事業では、長期派遣として1年間、日本の高等学校に相当する外国の高校に通うための留学を対象とし、留学する生徒に対し、平成26年度は1人最大30万円を支給することにしており、現在募集しているところです。昨年度は、青森明の星高校や八戸聖ウルスラ高校の生徒に補助金が支給されています。

このほかに今年度は、先ほど知事からお話ししたように、学校単位の海外派遣プログラムを対象として短期派遣を募集し、一人最大10万円の補助金を支給することにしてしています。

海外留学は、指摘のとおり、卒業に必要な修得単位数も課題になります。国の定めでは、校長は外国の高校における履修を在籍する高校における履修とみなし、単位修得を認めることができるとしています。その取扱いについては、各学校における履修すべき学習内容等との関連もあるので、各学校と相談する必要があります。

知事

ここで、理事長から皆さんにお話があるそうです。

理事長

今の発言は、とてもいいことだと思います。青森山田学園は、高校も大学もこれから国際交流をどんどん進めていきたいと思っています。ぜひ皆さんの中から、アメリカでもカナダでも中国でもインドネシアでも、1年位留学してみたいという人がいれば、その希望がかなうように、外国の高校での履修を本校での履修とみなし、2年の時に留学したら、3年として戻ってくるというシステムを作りたいと思います。頑張ってください。



知事

理事長、ありがとうございます。県ではなかなか即答できないことですが、青森山田高校ならできるといことです。

将来の夢は何ですか。

発言者4

具体的には決まっていますが、目標としては不登校問題の解決をしたいと思っています。

知事

カウンセラーでもいいですし、先生でもいいですが、ぜひその方向にしっかりと進んでください。

発言者5（2年、男子）

私は中学2年生の時に、父の転勤で福岡から青森に来ました。福岡での青森に対するイメージは、雪に閉ざされた暗い感じでリンゴとねぶた祭り以外は何も分かりませんでした。

でも、いざ住んでみるとその印象とはだいぶ違い、雪が降っても閉ざされることなく、スキーやスノーボードを気軽に楽しめ、地吹雪体験ツアーまであります。

おいしい食べ物は、数えあげればきりがありません。私はもっともっとPRに力を入れて、どこにいても青森を身近に感じられるようにすれば、これまでとは違う青森になるのではと考えました。

そこで提案ですが、青森を舞台にしたNHKの朝の連続ドラマや、青森ならではの番組や青森を舞台にしたアニメ等を作り、全国に青森ブームを起こすというのはどうでしょうか。その中で津軽弁や食べ物、自然などを紹介して行きます。「じぇじぇじぇ」がヒントなのですが、「あまちゃん」で有名になった岩手県には放送が終了した今でも観光に訪れる人が後を絶ちません。テレビにはこれほど宣伝効果があると思うのですが、いかがでしょうか。

知事

私と狙いが同じです。

ところで、福岡県から引っ越してきたそうですが、私の家内は、茨城県から嫁いできました。プロポーズした時は、「寒い。暗い。遠い。」などと言われました。

でも、青森に来てからは3人の子供にも恵まれ、こちらの生活にもすっかり馴染んで、今で

は、青森の方が家の中が暖かくて過ごしやすいと言ってくれます。皆さんも関東方面に行くとびっくりすると思いますが、あちらの家には、暖房設備がほとんどないので、冬はとても寒いんです。青森の冬は家の中は暖かいです、食べ物はとても濃厚でおいしいです、冬が終わると桜が本当にきれいに咲いて、とても楽しい気持ちになりますよね。実際に住んでみて、経験してみなければ分からない青森の良さがたくさんあります。

県でも、青森県の魅力についてはどんどん情報発信するべきだと思い、県庁の中に「まるごとあおもり情報発信チーム」という組織を作って、首都圏を中心に、テレビに取り上げてもらったり、映画を制作してもらったり、あるいは新聞や雑誌に取り上げてもらったりということをどんどん進めています。「青森って面白いぞ。」ということを宣伝しています。

NHKの朝の連続ドラマでは、以前、「私の青空」という下北半島にある大間町が舞台になったものがありますが、今後も宣伝したいことがたくさんあります。

それでは、まるごとあおもり情報発信チームの職員が来ていますので、補足してもらいます。

観光国際戦略局まるごとあおもり情報発信チーム職員

私たちは、青森のいろいろな観光地、食べ物、パワースポット、面白い人などのネタを集めて、それを首都圏のマスコミにPRし、「秘密のケンミンSHOW」や「旅サラダ」などのテレビ番組に青森をたくさん取り上げてもらうように働きかけています。取組を始めてから、もう10年ほどになります。ブログやFacebookを使って、自らも情報発信をしていますので、「まるごとあおもり」で検索すれば、アクセスできます。ぜひ、皆さんもアクセスしてみてください。

また、若年層をターゲットに誘客促進を図るため、アニメを活用した取組も行っています。例えば、「借りぐらしのアリエッティ」の舞台モデルとなった平川市の盛美園、日本が津軽半島を挟んで南北に分割占領された別な戦後の世界を舞台として青森に住む少年2人が登場する物語り「雲のむこう、約束の場所」などがあります。

また、チトという黒猫と一緒に横浜から青森にやってきた魔女・真琴の青森を舞台とした物語りで、最近話題になっているのが、「ふらいんぐういっち」という漫画です。興味のある人は、読んでみてください。

これらのアニメや漫画を観光に使っていこうという新しい取組を考えています。

知事

まるごとあおもり情報発信チームでは、どんどん新しい取組をしています。青森県内ではなかなか目に触れないかもしれませんが、首都圏を中心に、700億円以上の広告効果を出しています。

これからも青森の良いところ、ミステリーゾーンやパワースポットも含めて、青森というところをどんどん宣伝します。それでは、質問です。青森県のどういうことを日本中に宣伝したいですか。



生徒4

やはり、観光や食べ物です。

生徒 5

祭りです。

知事

祭りは、おもしろいですね。でも、私は青森山田高校がおもしろいと提案したいですね。今日の吹奏楽部の演奏といい、空を飛ぶような新体操部の演技といい、本当に素晴らしかったです。

ところで、将来の夢は何でしょうか。

発言者 5

小学校の教師になるのが夢です。

知事

そうですね。将来の夢に向かって、しっかり頑張ってください。

【知事所感】

どうもありがとうございました。今日は、新体操も披露していただき、吹奏楽のきれいな演奏も聴かせてもらいました。素晴らしい演奏だったので、ぜひ甲子園に一緒に行って、野球の応援をしたいと思いました。

また、今日は、5人の皆さんと意見交換をすることができました。未来に向かってそれぞれがしっかりと夢を持っていることが分かりましたし、青森県政に対しての提案もいただきました。叶えられる提案は、叶えていきたいと思います。

そして、理事長からは留学のことを前向き考えてみようというお話をいただきました。

とても素晴らしい1日をありがとうございました。

